

近江一閑張



【特集】
暮らしに寄り添う
ものづくり



近江一閑張 初代
蛭谷 金介

1931年生まれ
50年前に紙ひもを用いた一閑張を考案。創業当初から独創的な思想を持ち続け、現在でも新しい可能性を求め制作に注力。素材に紙を用い、上から同素材の和紙を張り重ねる事により剥がれにくく強度も増すことを発見し、そこからヒントを得て一閑張の作成を開始。これまでに何点もの作品を生み出し続け、現在では1点物を中心に制作を続けている。



近江一閑張 二代目
蛭谷 豊

1964年生まれ
近江一閑張 蛭谷工芸代表。1986年に父の後を継ぎ、およそ30年の間「近江一閑張」ひと筋。網目に沿って和紙を丹念に張り込むには高い技術力が必要となるため、長年の経験と勘を頼りに一閑張と向き合っている。紙の性質に理解が深く、素材を自在に操り、「正確さ」と「職人とは何であるか」を常に追い求めながら制作に取り組み続け、一閑張の魅力を全国へ広め続けている。



近江一閑張 三代目
蛭谷 亮太

1991年生まれ
伝統を新しい目線で見つめる。幼少の頃より祖父と父の仕事を見て育ち、二人の師の元、伝統を守りながらも現代の生活に合った新しい作風を取り入れ、新たな可能性を求め。紙ひもの柔軟で様々な形に応用できる特性を生かし、従来の一閑張には無い物に着目し、日々制作に取り組んでいる。

近江一閑張とは

一閑張とは日本の伝統工芸品の一つで、竹や木で組んだ骨組みに和紙を何度も張り重ね、柿渋や漆を塗って防水加工や補強を施した物。千家十職のうちの一つにも数えられ、茶道具などに用いられる。

近江一閑張は、従来の竹を素材とする一閑張とは異なり、素材に紙ひもを用いており、丈夫で軽く扱いやすいのが特徴。

蛭谷工芸

約40年前、京都で初代金介が木の板に和紙を張り塗りした人形の台を制作していたところ、現在の近江一閑張の素材となる紙ひもと出会う。その後、紙ひもを編み上げた物に和紙を張った一閑張を考案。1985年には、二代目豊が制作に従事し、その3年後となる1988年に湖南市(旧甲西町)正福寺に工房を移す。2015年には、三代目亮太が制作に従事し、親子三代にわたり、近江一閑張を制作している。



住所
〒520-3253
湖南市正福寺1328-20
☎ 60・7578
☎ 72・5788
✉ info@ebitani.jp

蛭谷工芸さんを
応援しています！



湖南省地域おこし協力隊
藤田剛史さん

地域おこし協力隊として、近江一閑張蛭谷工芸の公式オンラインショップなどを手掛けています。私のオンラインショップ「たちまち堂」でも近江一閑張を販売しています。



蛭谷工芸
オンラインショップ



たちまち堂

【豊さん】 飾り物ではなくて、日々の生活の中で毎日

大切にしているこだわりや思いはありますか

【亮太さん】 ここびあで販売しています。あと、大津のロイヤルオークホテルの売店と、インターネットによる販売もしています。昨年はイタリアで開催されたミラノサローネ(世界最大規模の家具の見本市)にも出品しました。今年11月に台湾での出展が決まりました。今後は海外にも販路を拡大していきたいと思っています。

【亮太さん】 父は職人としての歴が長い。私はまだ4年

お互いに刺激を受けていることは何ですか

【亮太さん】 一閑張自体がまだまだマイナーな工芸品だと思っています。一閑張を使うことで生活がどんな風に変わるかを知っていただきたいです。

どうして買ひたいことができるのか

使っていただけのもの、道具として使えるものという思いで作っています。普通に使えば形が崩れることはまずありません。角が擦れて下地が見えてしまうことがありますが、張り直し、塗り直しができますので、一生使っていただけです。

目、職人の世界を理解できていないことが多いです。職人は、技術はもろろのこと、コンスタントに同じ品質のものを作ることが大切だと思っています。いかにクオリティーの高いものを早く制作するか、スピードとクオリティーの両立という点で父の凄さを感じます。私はまだ時間がかかりますから。

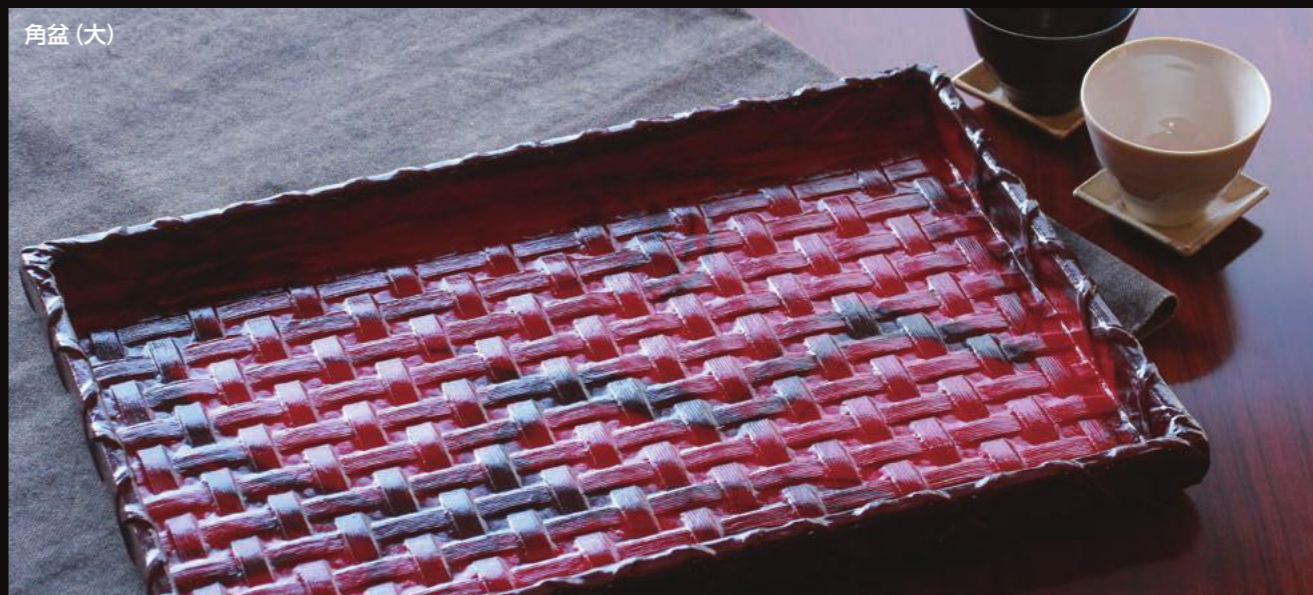
これからの展望

湖南省民にメッセージ

【豊さん】 若いパワーを息子からもらっています。年を重ねると、エネルギーが少なくなってしまうんです。若い子が身近にいるだけで、まだまだ頑張らないといけないと感じることができています。

【亮太さん】 紙で作っているのはうちだけです。知名度が低いという点で苦労しています。まずはたくさんの方に近江一閑張を知っていただきたい。今は百貨店での販売がメインですが、インターネットやSNSを活用したり、海外での販売などたくさんの方に知っていただきたいようにしたいと思います。

【亮太さん】 現在、近江一閑張は東京などで販売をしているのですが、色々な商品を見てきた人にも認めてもらえている商品です。そのようなものが湖南省で作られているというのを知っていただき、手にしていただくと嬉しいですね。



近江一閑張ができるまで



【豊さん】 三代目亮太には、一閑張という名前にこだわらず、想像がつかないようなことをどんどんしてほしいです。違う材料を使ってもいいし、違う形になってもいいと思います。そのために、亮太には頑張ってもらいたいですし、私もこれから出会う人たちから様々な刺激を受けながら、新しいことにどんどんチャレンジしていきたいと思っています。将来振り返った時に、「昔はこういうのを作っていたのか」となってもいいと思います。このままの形を残してほしいとは思っていませんので、新しいことに挑戦していいですね。

